

第5回 能美市タウンミーティング（婦人団体協議会）

平成29年6月29日（木）19：30～21：30

能美市ふるさと交流研修センター「さらい」

【婦人団体協議会会長】

きょうの市政懇談会はことし初めての婦人会の行事です。例年と違って、市長さんも新しくなったので、もう少し皆さんと市長との距離を縮めてほしいという私の思いがあり、このような形をとらせていただきました。短い時間ですが、濃い話を市長としていただきたいと思っています。なかなかこのような時間は持てないと思いますので、皆さんよろしくお願ひいたします。市長もよろしくお願ひいたします。

提言1

【婦人団体協議会司会（以下、司会）】

では、早速始めたいと思います。提言1についてよろしくお願ひいたします。

【婦人団体協議会】

地域でさまざまなイベントが開催されていますが、ぜひイベント会場に障害者用トイレの設置を希望します。先日、「スポーツフェスティバル in ねあがり」で車椅子の方がトイレを探して本部テントに来られました。近くの根上窓口センターのトイレを案内しましたが、あいにく当日は開放されておらず、諦めて仕方なく帰っていかれました。どのようなイベントでも確実に障害者用トイレがあれば、障害者の方も安心して積極的に参加してみようと思われるかもしれません。ご検討をお願いします。

また、トイレの件でもう一つお願ひがあります。小学校に洋式トイレをふやしていただけないでしょうか。順番に改装しているのかもしれませんが、今の子供たちは家庭や保育園で洋式トイレに慣れているために、小学校の和式トイレになじめず、家まで我慢しているお子さんもいるそうです。トイレの不安なく学校生活を快適に過ごせるようになることを願ひます。現在の改装の進捗状況を教えてください。

【井出市長】

まず、トイレの件でございますが、能美市が主催するイベントというのは基本的に公共施設のそばで開催することになっています。これはまさに、今ご指摘のようにトイレを利

用してもらおうという考えからきています。

スポーツフェスティバル in ねあがりのときに周りにトイレがなかったということですが、実は、多目的トイレとして利用していただけるものがありましたが、しっかりと周知できていなかったということなのだろうと思います。

そこで、今後は実行委員会を利用し、市の職員からトイレの位置をしっかりとご案内させていただき、当日もトイレの案内板等を会場に設置することを進めていきたいと思えます。それから、根上の窓口センターはことしのスポーツフェスティバル in ねあがりのときは閉じていました。ただ、今後は開放することも検討していきたいと思っています。次回の実行委員会のときに市からご提案させていただき、実行委員会の皆さんのほうで、開けたほうがいいのかということになれば、使っていただけるように配慮していきたいと思えます。

加えて、今、バリアフリーマップというものを市で整備をしています。体のご不自由な方がどのようなところにトイレがあるかということを目でわかっていただけるように、ホームページで公開をする準備を進めています。秋ごろには皆さんにごらんいただけるようになるなど、そんな予定をしています。

それから、小中学校のトイレの洋式化の件です。これは、順次洋式化を進めていまして、学校によっては、数は少ないですが、能美市の小中学校で洋式トイレが一つもないという学校は今ありません。必ず洋式トイレがあります。ただ、すべてを洋式化することはしておらず、和式トイレを1つだけ残すということで洋式化を進めています。トイレの面積が決まっている場合、洋式にすると占有率が多くなるということで、その面積に応じて洋式化を進めていっているということでございます。

ちなみに、石川県全体の洋式化率は44.2%で能美市は44.7%です。全体的に遅れている小中学校がありますが、それは大規模改修時に順次進めていく予定をしています。例えば、浜小学校は現在27.3%しか洋式化になっていません。浜小学校は大規模改修を平成32年度以降に予定をしています。3年後ぐらい、それ以後の計画になっています。

あと、全体的に洋式化が遅れている学校が湯野小、辰口中央小、根上中学校は大規模改修を順次進めていく中で洋式化率を上げていく計画です。

【司会】

ほかに、これに関しての質問ありませんか。

提言 2

【司会】 提言 2 番の方、お願いいたします。

【婦人団体協議会】

都会と違い、能美市は車がないと生活が不便なため、高齢になってもバスを利用する習慣がなく、免許証を返納しにくい状態です。また、高校が能美市には1校しかないため、金沢方面、小松方面へ出なければなりません。特に、宮竹、和気地区は公共のバスがなくなってきました。ことしのみバスの時刻表を見直したと聞きましたが、実際は高齢者も高校生も乗車率がアップしたようには見えません。県内外のほかの市では、乗合タクシーなどのような工夫をしているところもあると聞きます。のみバスだけではいつまでも不便さが解消できないのなら、スーパーやタクシー会社、NPO団体などを取り込んで通学や買い物、診療所などの受診を助けてくれる乗合タクシーのようなものがないでしょうか。交通弱者でも住みやすいまちであれば、人口減少に歯止めがかかるのではないのでしょうか。ご検討をお願いします。

【井出市長】

5月26日からタウンミーティングを始めていますが、交通弱者を何とかしてほしい、のみバスの利便性を高めてほしいというご意見、ご要望が一番多いです。

では、これまで市はいろいろダイヤとルートの改正をしてきていますが、ただ漠然としてきているかという、実はそうではありません。市民の皆様にアンケート調査をしたり、市の職員が実際にバスに乗って、乗っている人からご意見を聞いたり、できるだけ皆様のご要望におこたえできるようにこれまでダイヤとルートを決めてきました。それにも関わらず本当に大勢の皆様からいまだにご要望やご意見をいただいている状況です。

実態を申しますと、年間で約16万人の方にご利用いただいております。特に、70歳から80歳代の方の利用が多く、目的は買い物、通院、入浴、温泉に行くのに利用されている方が多いということです。

先日もある団体の方とお話をしていたときに、足腰も弱いし、停留所まで行くことがやっかいなので、家の前までバスが来てくれないかと言われました。何人もの方からそのように言われるので、「ぜひ、ご要望が多いのであれば、対応させていただくことも検討します。ただ、Aさん、Bさん、Cさん、Dさん、Eさんの家の前まで全部迎えにいくと、今まで30分で行けたところが1時間とか1時間半かかってしまうことになります。やはり公共の交通機関になると、そこまではできないのです。」というお話をすると、そうです

ねというお話になります。

とはいえ、今ご指摘のように何とかしなければならないという思いがあり、これは私の頭の中でのことですが、のみバスはのみバスとして、例えば、能美根上駅や寺井高校、辰口福祉会館といった利用者が多いところの連携バスを充実していきます。その一方で、個人的なご用事で病院に行きたいとか買い物に行きたいという方がいらっしゃるのであれば、その方たちのご要望にお応えできるような、まさにデマンド型の公共交通を用意していかなければならないのではという思いはあります。ただ、これが行政で全てまかなえるかということ、結局、多額のコストがかかってしまいます。それから、それぞれの個人の皆様のご要望にお応えするとすると、相当な台数を用意しなければなりません。合わせて運転手を用意するとすると、ある程度限界もあるのではないかと思います。

そんな中で、能美市泉台町がしている取り組みがあります。「えんがわ」という団体で、その地域の皆さんがその地域の人たちのために自分たちで車を準備して、地域の人たちのご要望に対応するという取り組みがあります。例えば、そのような団体をご支援する、加えて、どうしてもできない部分は我々行政のほうで補完をする。そんなことができないかということ、1年ぐらいかけてじっくり研究をしていきたいと思っています。

それから、高校生に関してのご指摘もございました。特に辰口地区の高校生が自分の行きたい学校に行くのに交通の利便性に欠けているということでもあります。冬季の通学バス利用に対する補助制度がありますが、これも今までかかる費用の2分の1を補助し、上限が1万円だったのですが、ことしから少しアップいたしまして、上限を2万円にするという予定があります。

それから、地元には寺井高校がありますので、ぜひ寺井高校へ多くの人に進学していただきたいと思っています寺井高校に通う皆さんの定期券も、今まで3カ月8,000円だったのですが、この負担をもう少し軽くしたいと思っています。

もう一つ、ダイヤ、ルート改正をしたのに、乗車率がアップしていないように見えるというご指摘もありました。今、変えたばかりなのでもう少し様子を見て、秋ぐらいにバスの乗降数調査をして、それも踏まえて冒頭申し上げたような改善を試みていきたいと、そんな思いでございます。

【司会】

ありがとうございました。私もタウンミーティングに2つほど参加しましたが、同じような意見がたくさん出ていました。このほか公共交通に関してのご意見、ご質問ないでし

ようか。

【婦人団体協議会】

北陸先端科学技術大学院大学（以下、先端大）の学生さんは、よくバスがないと言っています。皆さん、能美市に住んでいながらシャトルバスで鶴来のスーパーなどで買い物されています。多くの学生さんが鶴来に行っています。能美市に住んでいながらみんな白山市で買い物をするのは、何か、悔しいなと思います。能美市のほうに、スーパーにうまく回れるようなバスがあったらいいなということをいつも思っています。寺井高校生だけでなく、先端大の学生さんも能美市で少しお金を落してくれるようになるといいなと思っています。お願いします。

【井出市長】

本当に、ご指摘のとおりです。そのバスというのは先端大さんが運営しているバスで、実は学生さんが今ふえているということで、バスのサイズを大きくされるそうです。ただ、一部の学生さんたちなどが鶴来駅から電車に乗って金沢に通っていらっしゃるなのでそのバスを運行しているという話も聞いています。恐らく買い物だけではないのだろうと思います。ただ、今ご指摘のように、能美市のスーパーで買い物してほしいなと私も思いますので、一度それは先端大のほうに相談に行ってみます。ありがとうございます。

【司会】

そのほか、ありませんか。

【婦人団体協議会】

のみバスに乗られている方にアンケートをしたとのことですが、乗っていない人、利便性が悪いと思って乗らない人がたくさんいると思います。そういう方にアンケートはとっていないのですか。

【井出市長】

まず、能美市民を対象に抽出してアンケートをしました。乗っていらっしゃる方も乗っていらっしゃらない方からもアンケートはいただいています。私が説明不足だったかもしれませんが、乗っている人にもアンケートしたということであって、乗っていない人には用紙をご自宅に送り、しっかりお声は反映をさせていただいています。

【婦人団体協議会】

それは結構回収率はあったのですか。

【井出市長】

40%だそうです。中学生は100%です。

【司会】

ありがとうございます。それでは、次に移りたいと思います。

提言 3

【司会】 提言 3、よろしくお願いいたします。

【婦人団体協議会】

能美市では、平成27年度から子育て支援センターの土曜日開館が始まり、子育て中の親子はとても助かっています。しかし、支援センターを利用されている方から日祝日開館希望の声をよく聞きます。日祝日にどちらかの親が仕事の場合、大型ショッピングセンターで時間をつぶすことになりがちで経済的負担にもなってきます。お金をかけないで親子でゆっくり過ごせる居心地のよい場所が市内にも必要だと思えます。

また、最近は核家族が多いので子育てに不安を持った母親、父親がふえています。日々仕事と子育てに追われていると相談できずに孤立してしまいがちです。子育て支援センターを初め、ファミリーサポーター、保育士も心に余裕を持って一人一人に温かく寄り添ってくださることを希望します。子育て支援の内容充実についてご検討をお願いします。

【井出市長】

おかげさまで、能美市は住みよさランキングで今回9位になりました。これで4年連続ベストテン入りということで、まさに子育て環境がいいということが評価されているのだと思います。今おっしゃっていただいたようなご意見に一つ一つ丁寧に対応していきたいな思っています。ソフト面とハード面のお話があったかと思えます。

ソフト面について、どのような相談窓口や子育てのための活動をやっているかというところ、親子サロンとママ友相談をしており、大変好評だそうです。今まで子育て支援センターでやっていたのですが、今は粟生保育園で今行っています。

それから、今年度新たに、「子育て支援センターで遊ぼうwithパパ」、「孫といっしょ教室」というのをやるそうでございます。

それから、絵本カフェのみ広場というのもことしから開催する予定です。これも皆様方からこのようなことをやってほしいというご意見を受けて開催するということです。もし、機会があればぜひご参加をいただければなと思えますし、私も1回のぞいてみたいと思

っています。

それから、ハード面について、子育て支援センターを日曜日に開館できないかというお話です。実は、能美市には児童館が11カ所あり、土曜日はすべて開館しています。日曜日に関して、寺井中央児童館は第2日曜日が休みで、根上中央児童館は第3日曜日が休みですが、逆に言うと月3回は開館しています。祝日はすべて閉館していますが、日曜日は市内の児童館がすべて閉まっているわけではないので、開いているどちらかを利用していただければいいなと思います。児童館といえども未就学児が遊べるフロアも用意してございますので、できればそちらに行っていただければという思いがあります。

ただ、そのようなご意見やご要望がどんどん広がっていくようであれば、考えていきたいと思えます。さすがに子育て支援センターもすべての日曜日を開館するという事になると、いろいろな問題もあります。例えば、月2回ぐらいいは開ける、それから、夏場は公園など遊びに行ける場所がありますが、冬場は雪が降ってなかなか遊びに行ける場所がないということになると、冬季間だけ少し開けるなど、そのようなことも将来的には考えていきたいなと思っています。

【司会】

このことに関して何か意見ありませんか。

【婦人団体協議会】

子育て支援センターの日曜日開館について、児童館は開いているということですが、支援センターでは遊びに行くと、保育士さんやスタッフさんが対応しており、そこで悩み相談を受けていただけます。児童館では職員の方はいるのですが、そのような対応はしていただけません。

平日にお仕事されている方は、やっと遊びに行けても誰にも相談できない。ママ友が欲しい、お家で、一人では子育てをしたくなくて、誰かと一緒におしゃべりしたいという目的で行かれる方も多いですが、そこに職員がいないと、ほかのお母さんにつながる事ができません。悩み相談といっても平日にお仕事をして、帰ってきても支援センターは電話してもつながらない、遊びにも行けません。相談相手がいなかったことが孤立した子育てにつながっていて、子育てに悩むお母さんがふえてきたかなという現状だと思います。

【井出市長】

なるほど。（子育て支援センターは）遊ぶ場所だけじゃないわけですね。

【婦人団体協議会】

そうです。求めているのは話し相手、相談相手なので、聞いていただけるスタッフがいるということが一番重要だと思っています。

【井出市長】

子供たちの遊び場所の確保と、相談する人もいないといけないということ、2方面あるわけですね。わかりました。

【婦人団体協議会】

それと、日曜日に開催するメリットとしては、お父さんの休みが日曜日しかないというお家もあります。日曜日にお母さんがゆっくりしたいときに、お父さんは（子どもと）ショッピングセンターに行くということしかできません。お父さんと一緒に遊んでほしいというときに、日曜日に子育て支援センターが開館していれば、スタッフもいるので、お父さん1人でも連れていけたり、お父さんの悩みも聞いてもらったりできます。

女性の就業率アップということでは、お父さんの育児参加が絶対必要なので、土曜日にwithパパの教室は開催されていますが、日曜日しか休まないパパはそこには参加できません。

宇ノ気の支援センターはことしパパ講座は日曜日開催になったそうなので、ぜひ能美市でもお願いしたいです。

【井出市長】 よくわかりました。また状況をしっかり把握して考えていきたいと思いません。

【婦人団体協議会】

あと、女性の就業率アップということで、早くから保育園に行かれるお子さんがすごく多くなっていると感じています。園児がすごくふえていて、多分、園児の人数で保育士の数とかいろいろつけていると思いますが、保育園の先生は大変だと思います。また、能美市ではファミリー・サポート・センターがありますが、そのサポーターが全然足りていないということを感じています。

ファミリーサポーターについて、依頼はすごくふえていますが、協力してくださる方の数が足りていません。平日お母さんが仕事に行かれて、お父さんが帰ってくるのが遅い場合、どこにも相談できないことがあります。頼れる実家が近くにない方、実家に頼らずに出産するという方はとてもふえています。そこに入るサポーターさんは悩みを抱えるお母さんが最近ふえてきたなと感じています。ただお世話するだけではなくて、心の面もケア

できる力がサポーターには求められています、サポーターの講座というか、スキルアップのための研修は全然足りていないように思うので、そこは社協のほうに市が委託されているということですが、社協もいろんな福祉の面で大変そうなので、市もぜひ協力してほしいなと思います。

【井出市長】

はい。そのことについても状況を把握して考えていきます。本当に素晴らしいご意見をありがとうございます。

【司会】

私のほうから、ちょっと聞いた声です。寺井、根上の（児童館）は日曜日に月3回開いているということですが、結局、辰口のほうから行くということがもうおっくうというか、遠いなという声も聞いています。今3つの地域で仲良くしようと言っているところに、またこういうことを言うのも何ですが、やはり地域性があるので、そこも少し配慮いただけたらいいかなと思います。

【井出市長】

辰口に関しては辰口中央児童館、今建設予定でございます。おっしゃるとおり児童館ができあがってきましたらそうしたいなと思っています。

提言4

【司会】 では、次、提言4に入りたいと思います。

【婦人団体協議会】

新幹線の開業に伴い、能美根上駅の駐車場利用はふえているようで、駐車場が満車のときがふえて、タントまで車をとめなければならぬことがあります。駐車場をふやすか、満車の情報をリアルタイムでわかるようにならないでしょうか。

【井出市長】

私も2回ほど経験があり、タントまで車をとめにいきました。調べてみると、年中そのような状態かという、年に数回のようなようです。何で駐車場が100台になったのかと言いますと、もともと旧寺井駅のときに市営駐車場が42台あり、またJR西日本が月極めで使っていた駐車場が28台あり、足して70台になります。すこし余裕を見込んでつくったのが100台ということ。見ると、満車になるのはまれです。今のところ、能美根上駅の1日の乗車数は1,200人ぐらいです。

それに対して100台というは足りているのではないかなと思っておりますが、今後、満車になることが頻繁に起こるようになれば、やはり駐車場をふやしていかなければならないのではないかと思います。民間の駐車場も考えていらっしゃる方もいらっしゃると思いますので、状況を見ながら対応させていただければと思っております。

【婦人団体協議会】

昔はもっととめやすかったです。新しくなったときでも。

【井出市長】

まあそうです。ただ、駐車場はある程度の広い場所が無いとできません。場所をどう確保するかというのがありますし、実は、ゲートは結構値段がします。これを置くとなると、ある程度の規模がないと採算が取れないものですから、5台、10台ぐらいでは取れないので、ある程度の場所を確保しないといけないものですから、その状況を見たいなと思います。

それから、リアルタイムで駐車場の状況を見られるようにならないかということですが、これも、将来的には検討していきたいと思っております。まずは、ホームページなどで能美根上駅前の駐車場が混む日はこんな日とこんな日がありますよというようなことを事前にお知らせをする。そのような対応させていただけないかなと思っております。またぜひご利用いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

フリートーク

【司会】

それでは、予定どおり提言は終わりました。皆様のご協力のもと順調に進んでおりますので、自由提言の時間がありそうですので、どうぞ皆さん手を挙げてどんどん発言していただきたいと思っております。

【婦人団体協議会】

私、大学に勤めています。外国人の方がもう今は4割ぐらいになりまして、学生1,000人のうち、今400人ほどになっています。税金関係などいろんな書類が来るので、大学でも日本語がわからない人のサポートをしています。やはり、市役所に行った場合、窓口で英語ができる方をもう少し配置していただければ対応していただければと思っております。大学の学生課の方がついていかないと、全く対応できない状態です。たまにいらっしゃるみたいですが、1人ではなくて、何人か常時窓口で対応できる方を設置していただければと、お願い

したいなと思います。

また病院へ一緒に付き添いで行ったことがあります。そこではタブレットを持った男性の方が英語も少しお話しできて、医療用語をタブレットで訳して、そして本人に見せながら会話をしていました。

【井出市長】

同じようなご意見をいただいております。きょう学長さんから、外国人がとてもふえているというお話も聞きました。それと外国人の学校に通う方よりもご家族のほうが大変不自由な思いをされているという話も聞きました。結局、大学に通っていらっしゃる方は日本語もしくは英語ができるため、まだ市役所のほうでも対応できるのではないかと思います。そのため、特にご家族の方がご不便を感じているのではないかと思います。

そこで、能美市では外国人の方はこっちに来てねというような窓口をつくりたいなと思っています。そこには、必ず英語ができる人を配置して対応できるようにします。ただ、例えば、税金について聞きたい、それから健康保険のことも聞きたい、それから、何かほかのいろんなことも聞きたいという話になると、それは言葉ができるだけではなく、それらの知識がないと対応できません。そんなスペシャリストはさすがになかなかそろえることができません。ですから、まずはこっち来てねという窓口をつくって、一番初めに会った人がきちんと対応できるようにしておいて、その次は、話すと自動で翻訳する装置を購入するので、専門知識を持った職員が翻訳された日本語で聞いて、返事を日本語で言うと外国語に翻訳される、そんな対応をしてサービスの向上に努めたいなと思っています。

また、言葉だけじゃなくて、よくある質問みたいなものを最初に用意しておいて対応するといったこともしたいなと思っています。

【司会】

ほか、ないでしょうか。

【婦人団体協議会】

乳がん検診が来年から2年に1回になるとのことです。今の世の中、こんなにがんと言っているのに、どうして2年に一度の検診に移行されたのか、そこが聞きたいなという人がいましたので、お願いいたします。

【井出市長】

これ、私も専門的な知識を持っていないので、きょうはその担当がいらないのですが、こ

れは国の方針で2年に1回になったと聞いています。

それで、これは乳がんの検診の精度が高まって、国のほうで2年に1回でも大丈夫だという判断に基づいていると、聞いています。これは、またしっかりと聞いて、改めてお答えをします。いい加減なことを言うことはできないので、また正確にお答えをします。

【司会】

ほかにありますか。

【婦人団体協議会】

保育園の病児保育について、市立病院の隣にある病児保育室ですが、今、土曜日に受け入れはしていないそうです。能美市の保育園全部が土曜保育を受け入れしていますが、お子さんが病気すると土曜日に病後児を預けられるところがあります。しかし病児中になると平日は病児保育室で預かっていただけるということになってはいますが、土曜日はしていません。土曜日に仕事のお母さんは保育園に預けることができます。けれども、病気になったときには預け先がなく川北や小松の市外に預けるということを知ります。能美市にいて市外に頼らなければいけないのはどうなのかなと思います。頻度の問題もあると思いますが、そこがちょっともどかしいというか、困っているお母さんがいるのでどうかなと、そこは検討に入っているのかなと思います。

【井出市長】

それは、医者の問題、看護師の問題もあるものですから、ご要望としてお聞かせいただき、どういったことができるのか、また改めてご案内させていただきます。わかりました。

【司会】

ほか、ないでしょうか。

今度9月に、婦人団体協議会で、県政会議が加賀で開催されます。それがことし、能美市が提言の当番になっており、知事のほうから回答いただけると思うのですが、その提言を一度聞いていただきたいということがあります。県政会議の前に井出市長の答えをちょっとお聞かせいただきたいということでお願いします。

【司会】

能美市婦人団体協議会では、会員相互の資質向上、青少年の健全育成、男女共同参画を

目指した生涯学習、環境問題への取り組み、さらには最近では防災意識の向上を目標に掲げ、地域が連帯した心ゆたかな社会づくりのため勉強会や講演会、関連団体との協力や災害時ネットワークの構築など、幅広い活動やオールマイティな人材育成を継続しています。

このような活動により、能美市の女性防災士は現在39名のうち婦人会関係者は24名と6割近くを占めるまでになっています。また、能美市に合併する前から、旧3町の婦人会では、町民の皆様の冠婚葬祭の負担を軽減し、お役に立てるよう貸衣装事業、祭壇事業を運営しています。この事業は県内でも数少ないもので、能美市婦人会の目玉事業でしたが、最近では着物を着る機会も少なくなり、葬儀も公民館を利用する機会がほとんどなくなり、婦人会の地域に根差した活動の原点である貸衣装事業や祭壇事業を続けていくことが困難になってきています。

さらに追い打ちをかけるように、個人の価値観が多様化し、以前は各家庭から1人婦人会員が入会していたのですが、強制加入ではないこともあって、入らない人がだんだんふえています。10年前まで3,012名いた会員がことし4月には1,971名と約36%の減少となっています。ちなみに、石川県全体では10年前から38%の減少となっています。

このように、会員が減少していく中、いかにして活気ある婦人会を維持運営していこうかと試行錯誤している私たちに対し、県や市の行政からは女性代表という位置づけでさまざまな協力依頼や委員会への参加要請が来ています。さらなる女性の地位向上のためにも必要不可欠だとは思いますが、実際には限られた人の中からの人選に頭を悩まし、結局会長を中心に何役も引き受け、負担も大きくなり、ひいては会長を含めた役員を選出に困難を来すこととなっています。

このような状況も町会単位での婦人会脱会、会員減少の大きな要因の一つとなっています。女性目線からの地域に根差した活動を絶やさないために、これ以上会員を減らさないようにするにはどうしたらよいか、各町単位ではなく、市を含めた地域全体で考えていかなくてはいけない時期にきているのではないのでしょうか。

このような婦人会の現状を県の自治体としてどのように把握され、その対策など検討されているのでしょうか。お答えをお聞かせいただきたいと思います。

【井出市長】

すごく重大なことですね。恐らく、婦人会さんだけに限った問題ではないのだと思います。今、私が住んでいる地域でも、青年団は本当に少なくなくて組織できていません。壮年団も少なくなっているというのが現状です。

一般的、社会的に、例えば、昔はお父さん、お母さんと一緒に住んでいたの、自分に子供がいても「子どもの面倒をみとるさかい行ってきまっし」ということがあったのではないかと思います。それが、核家族になり両親と子供しかいないと、子供の面倒見ないといけないので、なかなか婦人会に参加できないという環境になっているということが1つあると思います。

それから、婦人会以外のところに行っているのではないかと思います。例えば、子供の塾の送り迎え、土日は子供のスポーツクラブの送り迎えなどがあり、結局、ほかのことで忙しいので婦人会になかなか出られないのではないかと思います。

あとは、一般的に言われている人間関係の希薄化、あまり人とコミュニケーションをとりたくないということから、そのようなところに出るのが煩わしいということがあるのではないかと思います。

じゃ、満塁ホームランみたいな打開策があるかという、なかなかむずかしいと思います。私は、一つは三世代同居、近居、推し進めていくことによって、若い方が出やすい環境になるのではないかと思います。あとは、ご主人とワークシェアをして、女性が社会進出していきやすいような環境を整備していくということなのかなと思います。

【婦人団体協議会】

能登のほうでは婦人会に各家庭に1人という形で、条例化したところがあるみたいです。まあ、そこまでなかなか今は難しいことだと思いますが。

【井出市長】

本当に、家でじっとしている女性が少ないのではないかという気がしないでもないです。皆さん、いろいろなところに出ているらっしゃると思います。満塁ホームランみたいな策はないですが、やはり家庭の中で相互の理解と助け合い、協働が、女性がどんどん社会に進出するきっかけになるのだらうと思います。

【婦人団体協議会】

町会長さんの中には町内で婦人会は必要だと考えている人もいます。結局は夏祭などをするときに手伝ってほしいからそういう会は必要ではあるが、校下や市まで行かなくてもいいという考えの町会長さんもいらっしゃることは確かです。ですから、もし、市にお願いするとしたら、そういうところも含めて婦人会の必要性について、何かのときにお話しただくとありがたいかなと思います。

【婦人団体協議会】

コミュニケーションをとるだけでなく、大きい役が来る前にやめようという町内会さんが多々あるような気がします。私が住んでいる町では、10人もいるかいないかの会員数です。能美市は意外と婦人会をやめる年齢が早いですが、能登のほうに行ったら、ご高齢の方が多いです。やはり町内会では必要なのに、校下、市までは必要ないというところもあります。大きい役が来る前にみんなでやめようというところもあり、大きい町にも関わらずさっさとやめてしまいます。あるところでは、その婦人会が解散したことすら知らない町内会長さんもいたとのこと。そこの町内だけが潤っていいのかなというところもあるので、市長さん、タウンミーティングに行かれたときに、ちらちらとでもいいので、女性がまとまるということをもう少ししなければならぬと声かけしていただけたらと思います。辰口校下では1人の会員のところもあります。1人で何年も会員をやっているところもあるにも関わらず、20人、30人いても解散しようと、さらっといくところもあります。もう少し横のつながり、縦のつながりで、この市ももっと女性の力で盛り上げていってもらいたいなということがあります。

【婦人団体協議会】

(会員が) たくさんいても、やっぱり前向きには考えられない、どうやって続けていこうかという考えと、これだけ会員が入らないのであればもう先細り、ということはもう先が見えているから自分たちの活動を縮めていき、単純に町内の行事の手助けだけで、自分たちでは何もしないという考えも出てきています。ということは、もう変な話ですけれども、うまく町に手助けすることが女性からなくなるということ、町内会長さんたちは理解しているのかなと考えるのが現実です。ここ5年、うちの町では5年したら、もう会長をする人がいません。

私はもう2回しましたが3回、4回、そんなにたくさんもできないし、会員数もだんだん減っていています。

【井出市長】

市の立場からすると、例えば、総合計画や何とかビジョンつくるとなると、各団体の長の方に入っていて、その人たちの意見を反映させたいと思うものですから、どうしてもお声がけしてしまいます。そうすると、大体どの会も同じ方が出席されることとなり、いつも申しわけないなと思っています。

【婦人団体協議会】

今後、女性会に入るであろう世代の若いママたちは、出産したあとすぐに仕事復帰して周りをつながることなく仕事に行かれて過ごされるということで、つながる楽しさをあんまり実感しないまま慌ただしく日々を過ごしていく。やっぱり、広場、集まる場所、そういう若い方が仕事復帰していないその時期につながることは、とても今後町内の活動に参加するのにとてもいい場所だと思っています。ぜひ、そういうところにも予算を使っただけだと、もうちょっとママたちは手が離れたときに町のために何かしようかなと思うのではないかと考えています。

【井出市長】

なるほど。そのようなことを支援センターなど人が集まる場所で、紹介するというのも必要なのかもしれません。

【婦人団体協議会】

そうです。話を聞いてくださるという人がいて、そこに行く。楽しい場所であり、あとはスタッフを通じてお母さん方がつながって行って元気になるっていうことがあるので、行きやすい場所であることと温かいスタッフがいるということが大切だと思っています。先ほど話した親子サロンというのは、みんなそういう研修を受けた者がスタッフになっていて、とてもうれしいことだと思います。あと、(親子が楽しく過ごす)のみんな広場は七、八年前からやっております。

【井出市長】

わかりました。なるほど。

【婦人団体協議会】

もう一つ、各町内に小学校のPTAがありますが、そのつながりでそのまま女性会合に上がってくると、すごく助かります。流れがあると、つながってくるのではないかと考えます。小学校PTAは小学校1年に入った時点でたしか入っていると思います。だから、PTAに入っているときは町内の行事などにも出ていると思います。

【井出市長】

大体PTAの最上級のときに地域のPTAを頑張って、「ああ終わった」といって一息つく人が多いのではないかと考えます。うちでもそうでした。

【婦人団体協議会】

そのままの流れで各団体に入っていく。壮年団などは当然そうなのですが、なかなかそ

の中で…。

【井出市長】

婦人会さんの活動の楽しさや魅力を我々も発信するようなことも考えていきます。わかりました。それはおっしゃるとおりです。

【婦人団体協議会】

今の発言に続くのですが、PTAは自分の子供のためにすることです。子供のためだったら何でも、仕事を休んでもしますが、婦人会に入りませんか？と言うと、何のメリットあるの？と言われます。祭壇などをやっているので割引などはありますが、それだけではなく、自分のためになります。婦人会では、いろいろ幅広いことを勉強する機会があり、私たちがこうやって今、市長と話ができているのは婦人会員だからです。県の知事のところに行けるのは婦人会だからです。婦人会は全国組織なので、全国の大会があるので、いろいろなところに行って、全国の会長さんと会う機会もあります。すごく幅広いので、自分が婦人会に入らなかったら会わない人に会うこともできるし、思わぬ勉強ができます。何でこんな勉強と行って行ったのですが、聞いたらすごく興味を持って防災士になるとか、環境に関して勉強しようと思うなど、機会がいろいろオールマイティに与えられるところなので、そこをメリットとして推してほしいと思います。

【井出市長】

いろいろおっしゃるとおりで、我々もいろんな場面で人集めというのにすごく苦勞しています。例えば、何かに来てもらうのに知り合いを通じて、一生懸命勧誘してもらえないかなど、いろいろな場面で人集めに苦勞しています。

いずれにしても、婦人会さんの魅力をもっと発信をしていくということを我々もさせてもらえばなと思っています。

【婦人団体協議会】

さっきの提言には少し遠慮がちに書いたのですが、このような事業をしている婦人会というのは、県内はもちろんですけど全国的にも非常に珍しいところです。そこを本当はもっともPRしたかったのですが、今回は県への提言ということで、そこをメインに言うことができませんでした。そのあたりのことについて、市も後援でないですが、何かホームページから飛んで行くとか、いろいろ婦人会とリンクするような形で発信していただければ、もっと魅力ある能美市の婦人団体協議会を全国的にもアピールできるのではないかと思います。

【井出市長】

おっしゃるとおりで「広報能美」などで紹介させていただくことも考えていきますし、ホームページから飛んでいけるようにすることもやります。

【婦人団体協議会】

婦人会自体の行事ももっと密度の濃いもの、楽しいもの、濃度の濃いものを考えていかないといけないと思います。今、男女共同参画社会の面から見たら、やっぱり能美市では町会の役員などの女の人の参加率が低い状況です。その率を上げていくためには、婦人会から町内に入って行って、町内の人たちと仲良くなっていかないと、町内の中の組織には交わっていけないと思います。だからその面から見ても婦人会は必要だなと思いますので、よろしくをお願いします。

【井出市長】

私も婦人会は大切だと思っています。わかりました。

【婦人団体協議会】

最後に大きな問題を投げかけて。本当に婦人会らしい意見で終わりそうでよかったと思います。

【井出市長】

ここで皆さんに、最新鋭の機械を使ってアンケート調査をさせていただきたいと思います。テレビのリモコンのdチャンネルのようなものです。

今から10問ぐらいの質問をいたします。スクリーンに質問が出ますので、ご自身の該当するところのリモコンの番号を押してください。そうすると、瞬時に皆さんの押した番号の集計が出ます。いろいろと聞きたいことがあるので、ご協力いただければと思いますので、よろしくをお願いします。それでは、ここからの司会は職員にかわります。

【職員司会】

少し今からお時間をいただきまして、発言なさらなかった方の心の声もここに反映させてみたいと思います。

皆さん、お手元にリモコンを持っていらっしゃると思います。今、市長がご説明したように、スクリーンに問題が出てきたときに、幾つかの項目が出てまいります。その該当する番号を押していただければ、すぐ集計されて、ほかの方々がどのような思いを持っているかということを経験することが出来ます。

また、市のほうでもこのご意見を参考にさせていただいて、まちづくりに生かしていきたい

たいと思っております。

最初に、アイスブレイクでひとつ練習してみたいと思います。

「皆さんの好きな色は」ということです。これに該当する番号を押してみたいと思います。

45秒が過ぎましたら自動的に集計されて、今ここに出ています。ピンクが11人いらっしゃいます。割合も出てきます。ピンクの方が34%いらっしゃいます。白と紫が少し多いですかね。黄色も多いです。このように好きな色がいろいろと好みが分かれているということになります。

では、本番に参ります。

能美市広報紙「広報能美」、について皆様のご家庭に届いていると思いますが、最近一新いたしました。皆さんの印象はいかがでしょう。

では、集計してみたいと思います。半分の方が「以前よりよくなった」です。どうもありがとうございます。早速担当部署に伝えたいと思います。でも、その一方で「前のほうがよかった」という方もいらっしゃいまして、また研究を重ねてまいりたいと思います。

次に「子供たちの笑顔でつくったPRポスター、ごらんになりましたか」。

「よく見かける」が18人ですね。ありがとうございます。「知らない」という方もまだ8人いらっしゃるようです。寂しいことにQRコードにアクセスしたという方はゼロですね。

実は、そのポスター、子供たちの笑顔で5種類つくらせていただいております。いろんなところに張り出していますが、QRコードがついておりまして、そこから能美市のよき部分をPRしております。ぜひ、ごらんになられましたら、一度QRコードをかざしていただければと思います。

【婦人団体協議会】

ポスターは小さめはないのですか。大きいものしかないのですか。

【職員司会】

はい。あのサイズしか今のところつくっておりません。

【婦人団体協議会】

あんまり大きすぎて、張るところに本当に困る。

【職員司会】

そうですね。かなり大きいですので、また検討してまいります。

では、次参ります。

「いしかわ動物園に行ったことがありますか」。

「過去に何回か行ったことがある」19人で最も多くなっております。60%の方が過去に何回か行ったことがある。行ったことないという方が3.1%ですね。過去に一度きりという方も9.4%、1割ぐらいいらっしゃいます。年3回以上は行くという方も3%いらっしゃいます。

では、次、参ります。

「のみバスを利用されますか」。

93.8%の方が「今は利用していない」と回答されております。

では、次参りたいと思います。

「能美根上駅を利用されますか」。

「あまり利用していない」という方が最も多くて15人いらっしゃいます。それから、年に数回利用するという方も多いようです。こういう状況でございます。

では次、「住みよさランキング全国総合9位」先ほど市長の言葉にもありましたが、全国の791の市、それから東京23区合わせまして814の都市で順位をつけております。全国で9位。住みよさについていかがでしょうか。

「住みよさは感じる」15人。最も多くなっております。その一方で「わからない」という方も10人いらっしゃいます。「住みにくい」という方は1人もいらっしゃらないです。

【婦人団体協議会】

ほかのところを知らないのです。

【職員司会】

このような状況です。

では、次に行かせていただきます。

「仕事、家事、子育て、介護を両立させるために何を望まれますか」。

最も多いのが「夫や家族の協力」となっております。続きまして、「行政サービスの充実」です。「勤務条件の整備」と答えた方も5人いらっしゃるようです。こういう形になっております。

では、次に参ります。

「人に勧められる能美市の魅力は」。

「子育て環境」と答えられた方、それから「自然環境」と答えられた方が同じく11人に

なっております。そして、「生活環境」と答えた方が5人いらっしゃいます。「人のよさ」と答えられた方は3人いらっしゃいます。「教育環境」は2人となっております。

次に参ります。最後になります。

「今後、市が力を入れるべき政策は何でしょうか」。

最も伸びましたのが「企業誘致・雇用の場の確保」でございます。その次が「高齢者福祉の充実」、そして「子育て支援の強化」、「商業施設の充実」と続いております。

このデータを瞬時に、そこに取り込まれてデータ化されております。皆様のきょうの見ていただいた中身は市役所のほうでまた活用させていただきたいと思っております。どうも、ありがとうございました。

【井出市長】

どうも、ご協力ありがとうございました。

【井出市長】

きょうは貴重な機会をいただきましてありがとうございました。

この機械というのはきょう初デビューでございます。まずは皆様方に使っていただいて、今後どうやって活用していくかということを考えていきたいなと思っております。いかがでした？ なかなかおもしろいでしょう。いろいろ使っていきたいと思っております。

最後に、今までこの5月26日からタウンミーティングを始めていますが、これまでのタウンミーティングの場合は冒頭に主催者の、町内会の代表の方がご挨拶されて、次に私が話して、それで質疑応答に入るというパターンだったのですが、きょうは、順番が逆になり、最後に私のほうから今の市の取り組みを紹介させていただければと思います。

このような場合は、私の政治の礎にしています現地現場主義、市民ファーストというものを進めていくために、皆様のご意見やご要望をしっかりと反映させていきたいというようなことを図式にしたものであります。

能美市の最大の課題、これは全国的にもそうですが、いわゆる人口減少問題です。能美市は昨年10月に5万人を超えたのですが、今は4万9,990人台です。5万人にはいっていません。10年後には、恐らくこのまま5万人ぐらいだと思っておりますが、2040年には4万7,300人になってしまっていて、その後も落ち込んでいくという分析結果が出ています。そして、人口が減るだけではなくて、高齢化率、これが25%から32%になるそんな状況でもあります。

これを何とかしたいということで、今やろうとしているのが能美市の魅力というものを発掘して県内外に発信をしていきたいということでもあります。その目的というのは、1つ

目が移住定住の促進です。人口が減っていく、これは合計特殊出生率と言いまして、女性お一人が生む子供の数が年々減っていつているということです。そうすると、移住定住を促進していかなければなりません。要するに、能美市に住んでいる人にはずっと能美市に住んでもらいたい、能美市外の人にこの能美市に移り住んでもらいたい、ということであります。

それから、人材の確保と書いてありますが、これは、その次にも出てきますけれども、企業誘致を進めても、地場産業を振興させても、働く人がいないと企業も来てくれないし、地場産業も振興しないということで、まさに人口をふやすということだけではなくて、産業を振興させるという意味でも、人口をふやしていかなければならないということなのであります。それから、その魅力の発掘、発信のもう一つの効果が企業誘致であったり地場産業を振興させたりということでもあります。また財源の確保、市の政策を進めていくためには法人税をしっかりと能美市の収入として確保していかないと手厚いサービスを続けていけないということで、企業誘致、地場産業の振興をしなければならない。

それから、ふるさと愛の醸成というのは、能美市内の中学校を出て、県内の高校を出て、例えば首都圏の大学に行ってしまう。そのまま首都圏の企業に就職をするという子供を一人でも多く能美市に帰ってきてもらえるように、ふるさと愛を醸成する。つまり、能美市に住んでいるといいところであり、働き口もあり、それから、周りにも素敵な人がいっぱいいるといったことだけでなく、もっと、私はいろんな魅力を伝えたいと思います。例えば、北陸地方というのは全国一電気料が安いのです。それから、水道をひねるととってもおいしい水が出てくる。それから、高校生まで医療費が無料です。多分、今の小中学生はそれがどんなことかってわかっていないと思います。そのようなことを小さいうちから伝えていって、能美市というところはいいところやということを知ってもらいたいなと思っています。

ポスターを作成しました。見たことがないという人がいらっしゃるということに、ちょっとショックをうけております。何でこのようなものをつくったかという、能美市というのは住みよさランキングでは全国上位なのですが、魅力度、認知度というのは全国400番台だったり600番台だったりします。それから、我々平気でこれを「のみし」って読んでいますが、東京の人に読ませると「のうみし」って読まれます。悔しいものですから何とかしたいと思って、宣伝になるようなポスターをつくりたいと思いました。

それで、藤田誠さんという人がいらっしゃいます。これは、能美市大成町ご出身のアー

トディレクターで、アサヒビールのコマーシャルをつくったとっても有名な人です。その人と、梅佳代さんといって能登町出身の写真家をお願いをしました。そうしたら、能美市の魅力を象徴するのは子供たちの笑顔だといって、辰口中央小学校に行って撮ってくれました。そのポスターは、東京駅、大阪駅、京都駅、金沢駅、高速道路のサービスエリアに貼りました。能美市にもたくさん張っており、これで能美市の魅力をPRしていこうとしています。ポスターにはQRコードのシールが張っており、ホームページにリンクするようになっています。今、そのおかげで能美市のホームページへのアクセスが伸びています。ぜひ皆さんもそれに参加していただければと思います。

それで、ビデオもつくりました。市のホームページにアクセスしていただけると見られますし、のみチャンネルで1時間に1回は流れていますので1回見てほしいと思います。

先日、ビデオやポスターに出ている子に会いに行きました。みんなにビデオとかポスターに出て「人生変わったか」と聞くと、「何も変わらん」と言っていました。「何かいいことなかったけ」と聞くと、「声かけられる」とか言っていました。それよりも何しろみんなとても明るいのです。もう学校に入った途端に、みんな、「こんにちは」「こんにちは」と、次から次と、来る子がみんな明るくて、それが能美市の本当に財産だなと思います。それから本当に自慢できるところだと思って、本当に感動しました。本当にみんな明るくてかわいいのです。

ぜひ、この能美市の魅力を皆さんと共有して、皆さんにもどんどん発信をしてほしいなと思っています。私が感じる能美市の魅力をここで少し紹介をさせていただきます。まず子育て環境がすばらしいということ。保育園が21園あったのですが、今、15になり、そのうち7つは新しい保育園になりました。それから、福祉とか医療が大変充実している。自然景観がすばらしい。自然災害が少ない、震度4以上を観測した地震というのは10年前の能登沖地震以来ありません。それから、大きな台風が来ますよと天気予報で言っていますが、白山が守ってくれて、いつのまにか温帯低気圧に変わっているということで、本当に自然災害が少ないところです。それから、コンパクトで84平方キロメートルしかない。そこに74の町会・町内会がありまして、本当に、この町会・町内会の組織がしっかりしている。これは本当に能美市の財産だなと思います。それから、文化や各種団体の活動が本当に盛んである。まさに、きょうの婦人会の皆さんの活動もそうでありますし、寺井地区公民館やタントや辰口福祉会館を予約しようと思っても、たくさんの行事や会合をしていてなかなかとれない状況です。市民のコミュニケーションが深くなっている、まちづくりに

対する関心が高いということで、これは能美市の魅力の一つだなと思っています。

それから、いろんな産業があります。こういったことも子供たちに伝えていきたいと思っています。世界に通用する世界の超一流ブランドで使っている製品をつくっている会社が能美市にはたくさんあるということも子供たちに伝えていきたいなと思っています。

それから、交通アクセスが充実している。これはのみバスはおいておきます、小松空港まで車で大体20分から30分で行ける。小松空港まで行ってしまえば、全国だけじゃなくて世界にも行けます。しかも、空港に車をとめて行けるわけです。こんな便利なところはありませぬ。それから、金沢駅まで行けば新幹線に乗れる。それから、真ん中には国道8号、海側には木曾街道があります。今度木曾街道と国道8号の間にもう1本大きな道ができます。あのタントの前の道ですね。今、福島のところで行き止まりなっていますが、1本橋がかかります。将来的には金沢港まで直結になる、そんな道ができます。それから、辰口に行けば加賀産業道路がありますということで、本当に南北につながる大きな道が何本も走っている。それから、来年3月には能美根上スマートインターチェンジができる。これは市民にとっても利便性が高いですが、企業にとっても物流のアクセスが向上する。それから、観光客も来やすくなるということで、実は、能美市の交通アクセスというのは案外充実しています。

それから、特産品。丸いもやユズ、九谷焼、お酒などたくさんあります。そのなものをどんどんPRしていきたいと思っていますし、ふるさと納税の返戻品、もし皆さんの会社でこんないいものがあるよというものがあれば、ぜひ教えてもらいたいなと思います。

それから、観光資源ということで、動物園があります。これは今、いしかわ動物園にトキが来たことで、トキを見にくる人がたくさんいます。7月末にはホワイトタイガーも来ます。さきほど、動物園に行ったことない方、最近行ったことないっていう方がいましたが、ぜひ、また行ってほしい。特に、ナイトズー、これはお勧めです。それから、8月26日に動物園で婚活をやります。ボラ婚と言いまして、キャッチフレーズは「初めてのデートはいしかわ動物園」。男女が動物園でナイトズーのためのイルミネーションの準備をするというものです。

それから、能美市にはJAISTがあります。実は、大学があるまちというのはそうあるわけではありません。JAISTのいろんな魅力を我々も共有したいし、それから大学を利用していろんなまちづくりもしたいという思いもあります。それから、高校がある。寺井高校生がああたりを歩いたり、自転車に乗って回ったりというのは、本当に町の中

の賑わいの創出になっている。

それから、いろんなランキングが上位です。健康づくりという面で、全国に1,700余りの市町村があるんですけども、健康づくりという面で能美市は全国第30位。県内でもナンバーワンという称号もいただきました。これはいろんなことの積み重ねでこのような結果になっています。

いいことばかりではないという話です。厳しい財政状況ということで、これは社会費とか医療費が年々かさんでいって、だんだんだんだん厳しくなっているという状況は間違いありません。

それから、アセットマネジメントって片仮名で書いてありますけれども、老朽化した設備を直していかなければならないということです。これは、日本全国高度成長期に橋や道路、水道管をつくりました。これがみんな古くなってきています。水道管の工事ですが、能美市内に約430キロの上水道管が張りめぐらされています。それを全部新しいのにするのに100年かかります。予算上の問題と、交通の問題もあります。100年かかるということは、終わったときに、また次の100年に向かって直していかないといけないということになります。そのような費用がかかってしまいます。

それから、高齢者の足の確保ということで、本当に皆さんのところからご意見もいただいています。

それから、広域連携の強化ということで、能美市の人口が減ってくる。そうすると行政サービスを進めていく上で能美市単独でできないということが出てきます。能美市に隣接している小松市や川北町や白山市ともしっかりと手を結んで、それで市民サービスを維持向上させていくということもやっていかなければならないということです。

市の魅力を発信することを格好よくシティプロモーションと言いまして、ポスターを大々的にマスコミにPRしようということで、イベントを企画しました。市役所のロビーです。市役所の正面玄関から入ったところですが、今まできちんと飾っていませんでした。ここに、市の企業がつくっているものや、特産品などいろんなものをここに並べたいなと思っています。それから、もっと市民の人が来てもらえるように、例えば、生け花展とか書道展とかというようなこともするような場所にして、もっと市役所にお越しいただければと思います。ロビーから階段を上がっていくと市長室でございますので、ぜひお越しいただければ、おいしいお茶をご用意させていただきたいなと思います。

能美市の魅力を発掘発信して、能美市をよくしていったって、皆さんに住んでいてよかった

など思ってもらえる、自慢していただけるようなそんな能美市を婦人会の皆さんとともにやっていきたいと思っております。

きょうはどうもありがとうございました。

【司会】

ありがとうございました。長時間、皆さん、ご苦労さまでした。

ことは例年とはちょっと違う形でさせていただきました。いろんな意見が、以前から比べたら市長さんに直にお話しできて、楽しい機会ができて、よかったなと思います。これからもよろしく願いいたします。